別紙２

審査結果の要旨

氏名　Rachel B. Varona

本研究の目的は、これから高齢化を迎えるフィリピンにおいて、今後の対策を検討する資料を提示するために、高齢者の主介護者を対象とした追跡研究を行い、１）追跡から 2 年後の介護継続状況を把握すること、２）その関連要因を初回調査のデータとの関連において明らかにすること、また、介護継続のみを対象に、３）介護負担感を予測する要因を縦断的に抽出したものであり、以下の結果を得ている。

追跡から 2 年後の介護継続状況では、
1．死亡ケースを除く 280 名中、239 名（85.4%）の介護者が２年間同一の虚弱高齢者に対し介護を継続していた。
2．介護非継続群における非継続理由として仕事で忙しくなった（n=15)、病気のため（n=9)、介護者と虚弱高齢者の家族、親族もしくは虚弱高齢者本人との間で葛藤があったため（n=7)、高齢者の好み（n=5)、その他（n=5）が挙げられた。
3．介護継続群では、介護非継続群と比較して、「既婚者」の割合が有意に高かった。また、子供（51.0%）と配偶者（20.9%）の割合が有意に高く、介護継続期間が１年以下の割合が低い傾向がみられた（継続群：15.1%、非継続群 29.3%)。虚弱高齢者の特性では、継続群では非継続群と比較して女性の虚弱高齢者の割合が高い傾向がみられた。

介護継続における関連要因については、
4．介護継続の有無に関連する要因をロジスティック解析分析の結果、子と配偶者の関係の場合、有意に介護を継続した。そして、女性虚弱高齢者を介護する場合、有意に継続していた。また、女性介護者、高い扶養義務感をもつ場合、介護を継続する傾向がみられた。

介護負担感を予測する要因については、
5. 介護継続群のみにおいて、負担感の関連要因を検討する重回帰分析を行った結果、女性介護者ほど負担感が低く、介護時間が長いほど負担感が有意に高かった。また高学歴の者ほど負担感が低い傾向がみられた。

以上より、フィリピンの一都市における介護者への 2 年間の追跡調査では、介護継続率は 8 割以上と高く、その介護者は妻や娘であり、高い扶養義務感を有する者ほど、介護を継続していることがフィリピンの介護者の特徴であることが明らかにされた。本研究の結果は、すでに高齢社会として位置づけられる日本をはじめ米国、欧州での結果と異なり、家族間の扶養意識の高さがその要因に挙げられ、フィリピンの高齢化対策に関して世界で類をみない新しい介入プログラム立案に貢献するものであり、学位の授与に値するものであると考えられる。